

U子さんシナリオ

オープニングフェイズ

●シーン1:嫌な仕事(PC3)

◆解説

PC3のオープニング。最近欠勤が続いている同僚の取田の事を考えながら仕事をしていると、上司に呼ばれる。

会議室であなたは取田がジャームとなり、他の社員...オーヴァードを襲っているという事を聞かされる。そしてあなたはUGNのエージェントと共に取田..."敵対的買収"《M&A》を処理するように命じられる。

▼描写1

1)最近、(PC3)の職場では休む者が多く、増えていく業務がのしかかっている。一番初めの辺りから会社を休んでいる同僚、取田の事を思い出していた。

2)取田は天才的な商品開発者だった。改革派に属していたものの、あなたとはよく話す機会があった。

▼セリフ:取田

「はああ...うまくいかない...」

「ああ...すまん、えー...お前ならいいか。今少し、極秘プロジェクトに関わってな」

「何してるかは言えないんだが...上手くいなくて悩んでな...」

「だがこれが成功すれば必ず利益が生まれるはず...ウチだって発展するだろう...ボーナスが楽しみだぜ」

▼描写2

1)声を掛けられ、あなたはハッとする。上司..."非日常"の案件だろう。あなたは直感した。

2)自分達しかいない会議室へ通され、上司が話し始める。

▼上司

「ちょっと、いいか」

「最近...休んでるやつ、多いのは知ってるよな？」

「これは極秘の話なんだが、取田がジャーム化した。それで、社員を襲ってる。休んでるやつ、オーヴァードばかりだろ」

「...そこで、UGNを頼った。お前には、UGNの人間と一緒に取...ジャーム"敵対的買収"の処理を命ずる。...お前しかもう、動ける奴がない」

◆結末

PC3が取田を止めると決心したら、シーン終了。

●シーン2:神城からの要請(PC4)

◆解説

PC4と5のオープニング。偶然《ワーディング》に巻き込まれ、そこで遭遇したジャームと交戦した数日後。キミは霧谷雄吾に呼び出され、交戦したジャームが神城グループの元エージェントだった事を聞かされ、交戦経験があるキミと依頼に応じたPC5が対応を依頼される。

▼描写1

1)キミは徒歩で移動していた(目的は自由)。そんな時、慣れた気配を感じ取る。《ワーディング》だ！

2)発生源へと急行すると、倒れた人の側には片腕が巨大な剣のようなものと化したオーヴァードがいた。

▼セリフ:謎のジャーム

「ククク...さらに一つ。俺はまた、拡大した」

攻撃された)「ハアッ！お前もオーヴァードか...まさか、UGNか！」

「だがそれがどうした。俺は^{我が社}吸収し、拡大していく！俺の利益は誰にも邪魔はさせない！」

「俺は^{我が社}"敵対的買収"《M&A》！！この名前を覚えておけ...俺^{我が社}の事業はいずれUGNすら合併するのだから！」(退場する)

▼描写2

1)その数日後、キミは呼び出しを受けた。日本支部長・霧谷雄吾からの呼び出しだ。そこには、同じく呼び出されたのか、PC5もいる。

▼セリフ:霧谷雄吾

「呼び出しに応じていただきありがとうございます。PC4、PC5」

「神城グループから要請が届きました。エージェントだったオーヴァードがジャーム化し、他のエージェントを襲っていると。いつ外の間へ被害が及ぶか分からないという状況のために、我々に救援を要請したようです」

「PC4が先日交戦したジャーム、それがそのエージェントのようです」

「PC5にはその腕を見込み、依頼させていただきました」(他の理由でもよい)

「あなた方二人には、神城グループの担当者と共にジャーム...^{M&A}敵対的買収に対応していただきたい」
通信を受ける)「《ワーディング》が感知されました。恐らく、^{M&A}敵対的買収の可能性が高いでしょう。急行をお願いします」

◆結末

PC4と5が急行したところでシーン終了。

●シーン3:非日常の世界へ(PC2)

◆解説

PC2のオープニング。学校からの帰宅中、近道の為に裏路地を通る。そこで怪物と遭遇し、逃げ出すが後ろから腹を貫かれる。出口へ向かって這い進み、そこで巨大なスーツケースを持つ少女に出会い...

▼描写

キミは学校の帰りだった。何かの理由で近道をしようと思って...路地裏へ踏み込んだ。それが、間違いだった。

怪物がいた。片腕が巨大な塊と化した化け物。それが人間を貫いて、嗤っていた。

キミは背を向けて逃げ出す。こんなもの、望んでいない。

その瞬間キミの腹から、杭が飛び出した。それが引き抜かれ、血が噴き出す。視界が落ちる。体温が抜けていく。

怪物が何かを言った。キミはそれを認識できない。それどころではないから。激痛。痛み悶える事すらできない。死へ転がり落ちていく。キミは半無意識に路地裏から逃げようと紅い跡を残しながら這い進んで。

その日、少年は怪物に腹を貫かれ、巨大なスーツケースを持った少女と出会った。

▼セリフ:怪物

「ああ、しまった。まあいい...消せば済む」(腹を貫く)

「これでじき死ぬだろう...奇跡でも起きなければ、な」(立ち去る)

◆結末

巨大なスーツケースを持つ少女と邂逅してシーン終了。

●シーン4:仮契約(PC1)

◆解説

あなたの前に、敵対的買収と名乗るジャームが現れる。キミに契約を持ちかける。その場は去って行ったが。その数日後、路地裏から伸ばされる手を見つける。近づいて行けば、そこには瀕死の少年がいた。あなたはその少年に契約を持ちかけた。

▼描写1

キミは"営業"を終えて歩いていた。そこに、一人の男がキミに声を掛けた。

そう一方的に語ると踵を返し去って行った。

▼セリフ:敵対的買収^{M&A}

^{コンポーネント・マン}
「人型構成部品だな」

「ビジネスマンたるもの、名乗らねばな。^{我が社}俺は敵対的買収^{M&A}。お前に、契約を持ちかけにきた」

「お前の事は知っている。個人企業「N企画」。自らを売り込んでいるとな」

「ならば、^{我が社}俺がお前を買収しよう。^{契約}俺は吸収し、^{我が社}合併し、^{M&A}拡大していく。お前をより上手く、良く、利益を生み出してやる」

「返答はまた今度聞こう。今は目下合併するべき目標があるからな...」

▼描写2

...そんな事があったのが数日後。思い返しなが歩いているとあなたは路地裏から指先が突き出しているのを見た。

近寄っていくと、少年が倒れていた。

腹に大穴が開いている。腹を貫かれたのだろうか。路地の奥から赤い跡が続いていた。ここまで這ってきたのだろう。もうじき、死ぬだろう。

◆結末

契約をしてシーン終了。

ミドルフェイズ

固定イベント

●シーン5:覚醒(PC2)

◆解説

PC1と2は登場。PC2はここから登場侵蝕を振る。PC1と2が"仮契約"を行う事でPC2はオーヴァードとして覚醒に成功する。そこへPC3~5のいずれか(全員でもよい)が現れ、全員が邂逅する。

▼描写

(未決定)

◆結末

PC達が邂逅したらシーン終了。

●シーン6:作戦会議(PC5)

◆解説

PC達が集合し、情報共有を行うシーン。ここでPC1にUGNやオーヴァードなどの解説が入る(省いてよい)。ここでPC1が再び襲われる可能性があることや、PC2が敵対的^{M&A}買収との接触があった事から対応チームへの参加が決まる。

▼描写

あなた達は神城グループから提供された調査拠点の社宅に集合していた。

目下の議題はPC1と2。《ワーディング》の発生元にいた事から、敵対的^{M&A}買収と何か関係があるはずだが...

2人が敵対的^{M&A}買収と関係がある事が判明した今、隔離しておくより近くにいた方が良いでしょう。

◆結末

PC1と2も対応へ参加する事が決定したらシーン終了。

●シーン7:仮契約特典?(PC1)

◆解説

PC1も登場。学校へ行くPC1の護衛としてPC2も動向する事になる。UGN側の手回しによって転校生としてやってくる。社宅へと帰宅し、本格的に情報収集を開始する。

▼描写

問題が発生した。PC1が学生で、非日常こぢらを知らない家族がいる以上学校を休むわけにもいかない。その為護衛が必要なのだが...

PC2が護衛を引き受けた。UGNからの手回しがあれば、次の日から転校生として護衛に就けるだろう。

PC1と2は自宅ではなく、神城グループの社宅へ集まっていた。情報収集を行い、手掛かりを見つけるためだ。

◆結末

情報収集へ向かい、シーン終了。

情報収集

◆敵対的買収^{M&A}について

〈情報:UGN〉〈情報:ウェブ〉6

本名、取田練。天才的な商品開発能力を持ち、改革派として神城グループの発展に尽力していた。オーヴァードであり、シンドロームはエグザイル/モルフェウスのクロスブリード。

◆"事業拡大"について

〈情報:噂話〉〈情報:ウェブ〉〈情報:UGN〉8

意識が回復した被害者からの聞き取りによって判明した。社員を襲撃しそのレネゲイドを取り込む事を"買収"と表現し、更なる力を得る事を"事業拡大"と呼んでいるようだ。

◆敵対的買収^{M&A}の目的について

〈情報:ウェブ〉〈情報:UGN〉8

同じく被害者からの聞き取りによって"事業拡大"を繰り返し強力な力を手に入れ、組織を支配する事を目論んでいる様子だ。少なくとも、UGNを乗っ取るつもりなのは確かだ。

◆FHの動向について

〈情報:ウェブ〉〈情報:UGN〉9

FHが動いていた裏付けが取れた。FH側も何か予想外の事態が起きているようで、混乱しているようだ。調査によれば拠点が破壊されていた。

◆『極秘のプロジェクト』

条件:敵対的^{M&A}買収、FHの動向調査完了

〈情報:ウェブ〉〈情報:UGN〉10 〈情報:FH〉8

敵対的^{M&A}買収のジャーム化直前に関わっていたプロジェクト、それがFHで行われていた事が判明した。プロジェクトの内容は既存のレネゲイド薬剤の改良であり、αトランスの改良版を作ろうとしていたようだ。

トリガーシーン

●シーン8:Mergers and Acquisitions(PC3)

条件:『極秘のプロジェクト』を調査する

◆解説

キミ達の前に敵対的^{M&A}買収が現れ、襲いかかってくる。撃破すると、撤退する。

▼描写

情報収集を終えたキミ達に声かけられる。その瞬間展開されるこれは...《ワーディング》だ!

そこには敵対的^{M&A}買収が立っていた。傲慢な笑みを浮かべてキミ達を見ている。

倒した)そう言って撤退していった。

▼セリフ:敵対的買収^{M&A}

「俺^{我が社}を嗅ぎ回る輩がいると思えば、あの時のUGNの人間に...PC3か。俺^{我が社}を消しに来た、という訳か。

そんな営業妨害に俺^{我が社}は屈しない」

PC1を見て)「ほう、お前あの時の...なるほど、奇跡を手繰り寄せたか」

PC2を見て)「ふっ...なるほど...」邪悪に笑う

「いいだろう...俺^{我が社}がお前達の資産価値を査定してやろう！！」(戦闘開始)

撃破する)「良い...お前達を買収し、事業を拡大すれば、神城は俺^{我が社}が合併できる事間違いないだろう！」

(《瞬間退場》で退場)

◆結末

PC達が反応を示し、シーン終了。

●シーン9:非日常に踏み入って(PC2)

◆解説

先日の襲撃から数日。敵対的買収^{M&A}は見つからず、気の抜けない日々が続く。そんな中、PC1は内心を明かす。

▼描写

敵対的買収^{M&A}の襲撃から数日、奴の捜索を行っているが見つからない。

◆結末

クライマックスフェイズ

●シーン10: 生涯契約(PC5)

◆解説

PC達の元に敵対的買収発見の一報が届く。アジトへ乗り込み、最終決戦を行う。

▼描写

PC達の元へ敵対的買収発見の報告が届く。奴のアジトは廃ビル街の一角にあった。

そこにはより一層禍々しくなった敵対的買収が居た。

そう言うとPC2に手を伸ばし、笑う。

▼セリフ:敵対的買収

「ほう、俺を見つけたか。こちらから迎えに行くつもりだったが...まあいい」

動機を尋ねられた「何故か？それは一俺が企業であるからだ。神城の利益の為尽くした果てがこれだ！

神城の技術を混ぜαトランスを改良する！そうして莫大な利益を得る...何故それが理解できない...！神城
早月ィ...！」

「だから俺が神城を合併する。俺が舵取りをしようという事だ。分かったか？」

「さあPC2！こちらへ来い...情報を手土産にするつもりだったとは素晴らしい合併相手だ...！」

「お前！？何を言って...！」

「最早どうでもいい...ただ"買収"し"事業拡大"を行えば良いだけの事だ！！」

「PC3...お前の有能さも俺が上手く使ってやろう...！」

「Mergers and Acquisitions——！！」

戦闘中

物質合成1回目「これが俺の力だ！買収し、併呑する！」

物質合成2回目「—これで終わると思ったか？我が事業は拡大する！！これは買収したFHの遺産兵器
だ...これを...こうする！」《ハイブリーディング》使用

物質合成3回目「ここに俺の到達点を刻む...この成果を...我が身に、取り込む！強制起動—！」

「これが俺...俺の力だ！！」

◆結末

敵対的買収^{M&A}を撃破すれば、シーン終了。

エンディングフェイズ

「クソ、クソ、クソ...体に力が入らない...俺が砂へ変わっていく...」

「PC1...！契約だ、契約してくれ...！」

「俺は...俺はもっと拡大するんだ...嫌だ...助けてくれ...PC3...」PC3に手を伸ばす

「あ、ああ...PC、3...」消える

●シーン

◆解説

PC3のエンディング。キミは上司へ報告し、取田の墓参りをする。

▼描写

敵対的買収^{M&A}を倒して数日後。諸々の手続きを終わらせたキミは、報告を行っていた。

キミが頼んだもの...それは、敵対的買収^{M&A}...取田の墓だった。しかし、ここに遺骨はない。彼は砂になって崩れ落ちたからだ。

彼に身寄りはなく、最期は跡形もなく消えた。それ故に墓が無くとも良かった。しかし、キミは取田の墓を作ったのだった。

▼セリフ:上司

「...確かに受け取った。後はこちらでやっておく。...あいつは改革派として、神城の事を考えてたのは確かだ。それが...衝動に吞まれればああなる訳か。知識として知っていたが...実際に見ると...怖いな」

「...頼まれたのは用意しておいた。今日はそのまま上がっていいぞ。お疲れ様」

◆結末

墓参りを終えたら終了。

●シーン

◆解説

PC4のエンディング。霧谷雄吾へ報告を行う。

▼描写

敵対的^{M&A}買収を倒して数日後。キミは霧谷雄吾へ報告を行っていた。

▼セリフ:霧谷雄吾

「お疲れ様でした、PC4」

「今回の事件...1人の暴走という事でしたが、その動機自体は良いものであったのは確かです。それが衝動によりこうも歪んでしまう...我々も気をつけないければいけませんね」

◆結末

霧谷雄吾の部屋から退出すると終了。

●シーン

◆解説

PC5のエンディング。

本人の希望を尋ねる

▼描写

▼セリフ

◆結末

●シーン

◆解説

PC1のエンディング。PC1の自宅で料理を手伝っている。

▼描写

敵対的買収^{M&A}を倒して数日後。あなたはとある家で料理を手伝っていた。

彼の母親と並んで料理をしている。すっかり気に入られたようだ。

▼セリフ:母親

「あの子ったらいつの間にこんな可愛い子捕まえたかしら」

「ありがとねえPC1ちゃん。PC2はどこで油売ってるんだか」

◆結末

PC2が帰ってきて終了。

●シーン

◆解説

PC2のエンディング。家に帰ったらPC1がぬるっと入り込んでいた。

▼描写

敵対的買収^{M&A}を倒して数日後。提供された社宅を引き払った。共に事件へ挑んだあの人達とも、会える機会はあまりないだろう。

そうして自宅へ帰りリビングへ向かうと...PC1が家族と一緒に夜ご飯を食べていた。

ご飯を食べ終わったあなたはPC1を招き寄せて自室へと連行した。

▼セリフ:母親

「何してたのPC2。もう食べちゃうわよ」

「あんた彼女できたのねー...PC1ちゃんならあんたあげちゃってもいいわね」

◆結末

PC1と会話を終えたら終了